

# ごあいさつ



鹿児島県高等学校文化連盟  
会長 田嶋 吾 富

## 「全国の 友集ふ夏 輝けり 笑顔で紬ぐ かがしま総文」

令和5年の夏に開催されます第47回全国高等学校総合文化祭「2023 かがしま総文」がいよいよ目前に迫ってきました。これまでコロナ禍において、高校生達はその準備に距離を取りながら、時にオンラインを駆使し、マスク越しでも身振り手振りでコミュニケーションを互いに取合い、先輩達が引き継いできた文化のバトンを大切に繋いできてくれました。

冒頭の歌は、4月初旬に仙巖園で行われた曲水の宴で「友」という歌題でかがしま総文について詠んだものです。この3年の間、全国高等学校総合文化祭はコロナの影響で高知、和歌山、そして東京と、オンラインや入場制限やマスクの着用などの制限が強いられての開催でした。「かがしま総文」ではマスクを外して、全国2万人の高校生が笑顔で交流し、鹿児島の芸術文化がさらに発展していくように願ってつくった歌です。

令和4年度は、各部門ごとにプレ大会が実施され、参加した生徒はもちろん、運営面で支えてくれた生徒実行委員の皆さんにとっても、本番に向けて良い形で繋がっていくのではないかと期待しているところです。御指導くださった顧問の先生や各専門部の先生方には会場の準備から調整までご尽力頂き感謝申し上げます。

「2023 かがしま総文」という、約50年に一度のイベントに高校生として巡り会えたこの幸運を活かし、是非、単なる傍観者ではなく、主体的に係わり大会を支えていって欲しいと願っています。

県高文連としましては、このような思いも繋ぎつつ、「かがしま総文」が、高校生のみならず、本県の多くの児童生徒が全国レベルの作品等を身近に鑑賞し、芸術文化に関する見識を深め、表現力や創造力を磨き高めることで、本県、ひいては国内外の芸術文化活動の発展に寄与する催しになることを願っております。

最後に、令和4年度における県高等学校文化連盟の活動等をまとめた『文華』第34号が上梓されましたので、お届けします。編集に当たりご苦勞をいただいた関係者の皆様方に心から感謝いたしますとともに、今後も本連盟に対する御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつとします。